

献呈の辞

格段に厳しく感じられた冬も終わり、ようやく春めいた気候になってまいりました。ふり返ってみれば、去年は、震災からの復興もかけ声倒れの感があり、相変わらずの原発、諸外国との摩擦、その他逼塞感を強く感じさせる一年でした。その中で、大学も例外ではなく、ここ数年は外部からのかけ声にただもがき続けているような状態にも思われます。さて、そのあわただしい雰囲気の中、ふたたび年度の終わりを迎え、退職する先生をお送りする季節がやってまいりました。

専修大学文学部では、2013年3月末日をもって、歴史学科の太田順三教授、環境地理学科の青山高義教授、英語英米文学科の奥原宇教授の三先生が、定年を迎えられ、退職することになりました。

太田順三教授は、兵庫県城崎郡日高町（現豊岡市）にお生まれになり、兵庫県立豊岡高校を経て1962年早稲田大学第二文学部史学専攻に入学されました。その後、第一文学部への編入を経て、1966年同大学第一文学部史学科国史学専攻を卒業、続いて同大学修士課程、博士課程を修了されました。そして1978年、佐賀大学教養部の助教授に任官、1984年に助教授として専修大学に着任され、1985年には教授に昇格されています。以来、助教授・教授を通してあしかけ28年にわたって、本学において研究と教育にあたってこられました。

太田先生は、莊園制下の守護大名・戦国大名の研究者として知られ、

特にご郷里の大名である山名氏（六分一殿）の研究では多くの新しい知見を学界に提示されました。また、こうした研究を基礎に中世後期の地域的一揆体制の歴史的役割を明らかにされ、学界に論議を巻き起こしたともうかがっております。教育面では、歴史の基礎となるべき古文書学概論を長年担当されています。

青山高義教授は、東京都新宿区でお生まれになり、戦時下、幼少期を東京で過ごされた後、1962年東京都立大学理学部地理学科に入学されました。同大学修士課程地理学専攻、同博士課程地理学専攻を経て、1969年同大学理学部地理学科に助手として入職されました。その後、1981年山形大学教養部に自然環境論の講師として入職、助教授・教授を務められ、1992年専修大学文学部人文学科地理学コースに教授として着任されました。以来、21年にわたって、本学において研究・教育にあたってこられました。

青山先生は、グローバルスケールの気候変動から小気候・微気候とよばれるミクروسケールの気候まで、またコンピュータによる気象データ解析から野外での気象観測や気候景観の調査（屋敷林や雪囲いの調査）まで、対象的にも手法的にも実に幅広く気候学の研究を行ってこられました。また、教育にあたっては、「気候学を切り口に自分で地理学的問題を発見しその解決法を自分の力で探ること」をモットーにされてきました。先生は、現在の学科再編以前の人文学科時代に人文学科長を務められています。

奥原宇教授は、兵庫県西宮市のお生まれになりました。開成高校（東京）を経て、1964年東京外国語大学に入学され、1972年同大学大学院修士課程を修了されています。同年、富山大学に講師として入職

され、1976年同大学助教授、エセックス大での研修、ケンブリッジ大学での在外研究を経て、1990年には東京商船大学に移られ、1991年同大学教授に任官、1999年に専修大学に教授として着任されました。以来、14年にわたって、研究・教育にあたってこられました。

奥原先生は、イギリス文学、とりわけとくに、アイルランド文学の伝統を踏まえられた上で、ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』と『フィネガンズ・ウェイク』の小説技法の分析に集中的に取り組まれてこられました。教育では「イギリス文学の世界」を長年担当され、英文学の屋台骨を背負ってこられました。また、奥原先生は、平成14年から2年間、学科長を務められています。

三先生とも、本学での長い経歴の中で、その訾咳に接する機会は数多くありました。太田先生からは、10年ほど前に不要となった古いソファをいただきました。それはいまでも研究室で使わせていただいております。奥原先生のマンドリン生演奏を聴く機会がついぞ得られなかったことは残念でなりません。青山先生は、ご病気で休まれたことがありましたが、そこからみごとに研究と教育に復帰される様をみせていただきました。いずれにせよ、長年にわたって研究・教育に邁進されてこられた三先生にあらためて敬意を表したいと思います。

三教授の今後の益々のご発展とご健勝を祈念して献呈の辞とさせていただきます。

平成25年3月

専修大学文学部長 金子洋之